

建設業界と私

佐藤工業株式会社
土木事業本部 設計部 ● 米田 咲
設計第一課



— 今までの私

二〇一四年に総合職として佐藤工業に入社して以来、大阪・愛知・長崎・シンガポール・香川・東京と、様々な土地で仕事・生活をしてきました。

私自身、幼少期から父の仕事の関係で国内を転々としてきたこともあり、知らない土地で生活することに對して大きな抵抗はありませんでした。父は化学メーカーに勤めていたため、主に会社の拠点がある地域への転勤です。ある程度の勤務地が絞られ、周りに同じ会社の人も住んでいたため同じような境遇（環境）で生活をしている人が多くいました。

しかし、私たちの今いる建設業界ではどうでしょうか。現場のあるところが勤務地となるため、勤務地の予測はとても難しいです。今回、私は建設業界で転勤をする中で感じたことや、今後の働き方についてお話ししたいと思います。

— 働き方の多様性について

皆さんは転勤に対してどのようなイメージをお持ちですか。「会社のお金でいろんな土地に行けていい?」「ずっと地元に行きたいから困る?」「総合職ならば転勤はつきもの?」など、良いイメージも悪いイメージもあるかと思えます。私の場合は「総合職=全国転勤」。余程の理由がない限り断ってはならないという義務のように思っていましたし、私自身、様々な土地へ転

勤してきました。もちろん、希望の勤務地や部署を会社に伝えることは大切ですが、皆が希望通りの配属となるわけではありません。しかし現在、働き方にも多様性が求められる時代となってきました。いつ何時のライフイベントにより、現状の条件で働き続けられなくなった場合などに備えて、組織としてもっと働き方の幅を広げて、各自の生活スタイルに合わせた選択ができるようになれば良いと思います。

— 女性活躍について

現在、働き方の多様性に関して過渡期を迎えており、その中の一つに女性活躍が挙げられます。二〇一五年に女性活躍推進法が定められ、日建連においても「けんせつ小町」という言葉が誕生しました。まさに女性にとつて追い風の時代です。現在、多くの女性が現場で頑張っています。

私も去年まで現場で施工管理に従事していました。同僚や協力会社のおかげではありますが、私は現場で働く中で性差を感じたことはほとんどありませんでした。だからこそ、「けんせつ小町」といって女性だからという理由で注目されるのが少し不思議に感じたこともあります。しかし、現場で夏休み親子見学会を実施した際に、ある児童のお母さんから「私は建築学科出身ですが、当時は女性が現場で働くという選択肢がありませんでした。だから今日、女性が現場にいることにとても驚いています」と声を掛けていただいたことがあります。過去に女



転勤先で土木遺産を訪れるのも楽しみの一つ
(香川県豊稔池堰堤)



建災防けんせつ小町の現場見学会（一番左）

性が現場で働く選択肢がなかったこと、現在でも現場で働く女性がいることがあまり知られていないことを悲しく思いました。そのため、PRやイメージアップといった意味でも、「けんせつ小町」という名前で対外的に存在を知ってもらうきっかけとなり、またそこから建設業界に興味をもって未来の技術者が生まれればと思います。そして建設業界も女性が働いていることが当たり前となり、いい意味で「けんせつ小町」という言葉の必要性がなくなることを願っています。

誰もが働きやすい業界を目指して

私は去年までの約二年間、香川県で山岳トンネルの現場に従事していました。かつてトンネル工事は「山の神様が……」と言われ、女性が入ることができませんでした。それは迷信だけでなく、実際に危険であることから、労働基準法

で女性の坑内労働は禁止されていました。女性の坑内労働規制緩和が行われたのは二〇〇六年です。

この事実を知ったとき私は正直驚きました。昔、女性が坑内に入れなかったという話は知っていましたが、私のとらえ方としては大昔のイメージであり、まさか二〇〇〇年代に規制緩和が行われていたとは思いませんでした。もし私がその時代に働いていたらと考えることがあります。女性はトンネルに入っただけはいけないという固定観念がある中で、果たして私は声をあげられたらどうかと思うと同時に、私が今いる環境は当たり前ではなかったということに改めて認識させられます。

今回、女性という表現を多く使用しましたが私は今後の働き方に関しては、性別による違いではなく、あくまで個人の違いであるということ

はつきりさせていくべきではないかと思っています。労働環境に関して先陣を切って改善に努めていただいた先輩方に感謝をしながら、私も建設業界がより働きやすく、さらに魅力的な業界になるために今後努めていきたいと思っています。

制度や規則を変えることはとても難しいことです。ただ現状がこれで正しいのか、今の時代に即しているのかを、今一度考える必要があるのではないのでしょうか。私見の拙い文章ではありますが、最後までお読みいただきありがとうございます。

それでは次回、東海農政局でご活躍されている山田さんへバトンを引き継ぎます。どうぞよろしくお願いします。

米田さんからのバトンをしっかりと受け取りました。次号では、農林水産省広報プロジェクト「BUZZ MAFF」の一環として私が企画した「バイクだ山田」の他、東海農政局リクルート動画や農業土木の現場紹介についてお伝えします。是非これらの動画をご覧ください。

東海農政局
矢作川総合第二期農地防災事業所
調査設計課

山田彩優加



香川県でのトンネル工事貫通時（前列一番左）